



第25回全国大会案内



全国サンマッシュ生産協議会

第25回全国大会開催のご案内

謹啓 日頃は当協議会の運営にご尽力ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

林野庁の統計によりますと、平成 21 年度の生しいたけの全国生産量は 75,016 t であり、前年同期比 6.6%の増加となっています。栽培方法別では原木栽培が 13,651 t と 8.5%減少し、減少傾向にあるのに対し、菌床栽培は 61,365 t で 10.7%増加し、占有率は 81.8%まで高まっています。

さて、本年 1 月～9 月までの国産しいたけの市場取扱量は前年対比で 101%とほぼ横ばいですが、単価は 1～8 月まで前年対比を下回っており、9 月が前年を上回ったものの 9 月までの合計は前年対比 95%となっております。

一方、生しいたけの輸入量は 4,722 t であり、平成 20 年の 4,689 t、と比べて若干増加しております。輸入しいたけの市場取扱量は 116%と増加、単価も 114%と前年を上回っております。輸入しいたけの取扱量はまだまだ多いとはいえませんが、価格重視の消費者指向から取り扱いが増える傾向にあり、注視していくことが必要と思われまます。

景気回復の先行きが不透明な中、このように厳しい市況が続いておりますが、市場祭や各種イベントでの「サンマッシュ」のアピールや販売促進活動を推進してまいりました。さらに、消費拡大のため、(株)北研が中心となって食育活動に取り組んでおり、今後は当会全体に活動を広げてまいりたいと考えております。

本年 4 月に発生した宮崎県の口蹄疫では地元を中心に大きな被害があり、影響を受けた会員も多く、食の安全を考えると普段の取組みが必要であることを認識させられました。また、最近のニュースでは TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）への参加問題が取沙汰され、農業分野への影響が懸念されるなど、今後も我々にとって厳しい状況が続くことが予測されます。このような時こそ、会員の英知を結集して、生産技術の向上や流通販売対策を構築することが重要であり、全国サンマッシュ生産協議会の三大方針を実践していくことが、私どもの使命と考えます。

- ①「消費者に支持される安全安心な商品づくり」
- ②「サンマッシュ統一ブランドの推進」
- ③「女性部・青年部の設置とその活動の推進」

第 25 回大会は島根県松江市「くにびきメッセ」、玉造温泉「ホテル玉泉」で開催します。総会後には、安定した品質と量を確保するため、「発生管理」の基本と応用、「既存品種の特性再確認」、さらに「有望品種の紹介」をします。また、「サンマッシュ」ブランド化のための取組みとしての「販売促進活動」と消費拡大に向けた「食育活動」について紹介します。2 日目は会員の皆様からの要望が多かった視察研修を「JAいずも菌床製造培養施設・パッキングセンター」を会場に行い、その後「出雲大社」と「島根ワイナリー」を回るコースを設定しました。

品評会は回を重ねて第 21 回となります。今回は、対象品種の増加等、審査基準の一部に変更がありますので、詳細についてはサンマッシュ品評会開催要領をご覧ください。出品は、ご自身の技術水準の確認にもお役立て頂けます。選りすぐりの自信作の出品をお待ちしております。また、今回は初めて品評会出品物を一般に公開し「サンマッシュ」をアピールする予定です。

生産技術・品質・収量そして安全面でのサンマッシュの優位性を再確認し、流通の変化に対応できる意義ある大会とするため、会員の皆様がこぞって参加されますよう全国大会開催のご案内とともにお願い申し上げます。

謹 白

平成 22 年 12 月吉日

全国サンマッシュ生産協議会

会 長 森 坪 清 則